

原 著

夫が「父親を自覚」するきっかけとなった 出来事についてのアンケート調査

魚沼病院、2 病棟産婦人科；助産師

細貝 美奈、長井美枝子、南雲 直美

目的：夫が父親を自覚し、育児参加をすることは、母親の健やかな育児につながる。

そこで、妻の妊娠、分娩、産褥期を通して夫が父親を自覚するきっかけとなった出来事を明らかにし、育児行動を促す為の働きかけに活かす。

方法：母親学級3講（分娩準備）、4講（沐浴・育児）のいずれか、又は他院や地域の母親学級に相当するクラスを夫婦で受講した者。もしくは、立ち会い分娩した夫に質問紙を用いた自己式調査を行い、単純集計・分析した。

アンケート調査は以下の6項目であった。「対象者の属性」「父親を自覚した場面」「父親の自覚が増した時」「自覚した後、妻にしてあげたい支援」「退院後、赤ちゃんとの生活で心配なこと」「実際に1か月健診までに行った支援」

結果：夫は、妻の妊娠が動機づけとなり、立ち会い分娩や育児行動を通して父親を自覚することがわかった。

結論：1. 夫は、妻の妊娠、分娩、産褥期を通して、自ら取り組み体験した出来事をきっかけに父親を自覚する。
2. 父親が育児支援と考え行なった事は、育児行動であり、家事一般、相談相手も育児支援と考える妻との間に認識の差がある。
3. 夫の積極的な育児参加を促すには、妊娠中から父親になるための行動を起こすきっかけとなるような働きかけや、夫婦間の感情の共有が必要である。

キーワード：夫が父親を自覚、きっかけ、アンケート調査、質問紙による自己式調査、育児支援、育児行動、妻との認識の差

緒 言

近年、女性の社会進出や核家族化に伴い夫婦間の感情の共有や、父親の育児参加が重要視されるようになった。

父親が積極的に育児参加することで、母親に時間的な余裕と精神的なゆとりができ、育児に前向きになり、健やかな育児ができるという利点がある。しかし、父親の育児行動の促進には、親としての自覚が大きく影響する。母親は胎児や子どもの成長を自ら体感し、自覚しながら母性を育てることができるとに対して、

父親になった自覚には「周囲からの働きかけによる受け身の体験と、自ら取り組んでいる体験があった」と言われている(1)。

当病院では、妊婦健診に夫が付き添うことや母親学級への参加は珍しくなく、分娩に立ち会うことも多い。また、産後の面会時に兄の抱っこやオムツ交換、ビン哺乳をすることもあり、父親の自覚につながると考えられる機会はいくつかある。しかし、これらの場面を振り返った時、私たちは夫に対して父親の自覚を促すような積極的な働きかけをしていないのではないかと疑問があった。そこで、夫が父親を自覚するきっかけとなった出来事を明らかにし、今後の関わりに生かすことで、積極的な育児参加の手助けができると考えアンケート調査を行ったので報告する。

対 象 と 方 法

対象：2015年7月1日～10月31日に当病院で分娩した産婦の、母親学級3講（分娩準備）、4講（沐浴・育児）のいずれか、又は他院や地域の母親学級に相当するクラスを夫婦で受講した夫、もしくは、立ち会い分娩した夫を対象とした。

方法：アンケート調査

出産後、研究及びアンケートの主旨について説明し同意を得られた場合、退院時にアンケート用紙を渡し1か月健診時に回収した(表)。1か月健診時に忘れた場合は切手を貼った返信用の封筒を渡し、郵送してもらった。

結 果

対象となる夫44名に配布し、36名から有効回答が得られ、アンケート回収率81%であった。そのうち初産婦の夫は16名、経産婦の夫は20名であった。

母親学級のみ受講した夫は1名、立ち会い分娩をした夫は18名であった。母親学級及び、立ち会い分娩の両方に参加をした夫は17名であった。

1. 対象者の属性(図1)

対象者の年齢は、30歳代22人、20歳代10人、40歳代が4人であった。

2. 父親を自覚した場面(図2)

父親の自覚を得た場面について、7項目の中から選択してもらい次のような回答を得た。妻の妊娠を知った時53%、次に妊娠・腹部の増大に伴って

20%、漠然と15%、胎動に触れた時が9%であった。

3. 父親の自覚が増した場面

父親の自覚が増した場面について、18項目の中から選択してもらったような回答を得た。赤ちゃんを抱っこした時22人、胎児の画像写真を見た時20人、産声を聞いた時・赤ちゃんを初めて見た時が18人、分娩に立ち会い妻の支援をした時・大きくなった妻の腹部に触れた時が16人であった。次に育児に関する項目では、オムツ交換・お風呂に入れた・あやした時が10人であった。

母親学級参加者17人中、母親学級の参加や赤ちゃんが映ったビデオを見た時・人形を使用してお風呂に入れた時の項目は1人に留まり、参加したことで父親の自覚が増したと言う回答は得られなかった。

4. 自覚した後、妻にしてあげたい支援 (図3)

妻や子ども (赤ちゃん) の為にしてあげたい支援については、子育て41%、経済面21%、妻の相談相手20%、家事一般が18%であった。

5. 退院後、赤ちゃんとの生活で心配なこと (図4)

産後の妻の事が28%に対し、子どもの世話28%、子どもの成長発達の事24%と子どもに関する事については52%を占める回答であった。

妻や子どもに関する事以外は経済面18%、自分自身に関する事が1%であった。

6. 実際に1か月健診までに行った支援 (図5)

1か月健診までに行った支援においては、オムツ交換24%、ミルクをあげた17%、お風呂に入れた21%で育児に関する項目は62%であった。その他、家事一般13%、経済的支援13%、妻の相談相手が10%であった。

考 察

1. 妻の妊娠、分娩、産褥期を通して、夫が父親を自覚した出来事

妻の妊娠を知った時点で、53%の夫が父親を自覚し、妊娠中に妊婦健診に付き添い胎児の画像を見たり、大きくなっていく妻のお腹に触れることでその自覚は強くなっていた。そして、分娩に立ち会い、産声を聞いた時、初めて赤ちゃんを見て抱っこし、重さを感じた時により強く父親を自覚している。また、産褥期ではオムツ交換、お風呂入れなどの育児行動が父親の自覚に繋がる出来事であった。

女性は妊娠した時から、つわりや胎動、分娩を経て母親になっていくという明確なプロセスがある。それに対して森田らは「父親役割を考える契機となった体験には周囲からの働きかけによる受け身の体験と、自ら取り組んでいる体験があった」と述べている(1)。今回の調査において、夫は妻の妊娠を知ることが父親になる動機づけとなり、妊娠、分娩、産褥期を通して視覚、聴覚、触覚等五感で我が子を感じ、自ら取り組んだ体験が父親を自覚する出来事であることが明らかになった。しかし、一般的に講座などへの参加により、知識を持つことも父親の自覚に繋がるとされているが、今回、母親学級への参加は自覚に繋がる出来事にはなっていなかった。それは、父親の意識は直接子どもと接する事で形成されるものであり、人形やDVDは我が子とは別の存在であること、講座が妊婦主体であり夫への働きか

けが少ないこと、受け身の体験は自ら取り組む体験に比べ動機づけとしては弱い体験であることに起因すると考える。

2. 夫が父親として行った育児支援について

夫が父親を自覚した後、妻や子どもにしてあげたい支援として子育てを一番に挙げ、退院後の心配事も子どもの成長を挙げている。そして、1か月健診までに行った支援は主に育児であった。育児行動は父親にとって比較的、手間と時間がかからず楽しく喜びを伴うものであり、主体的に行い易い行為と言える。汐見によれば「母親が父親に期待しているのは、育児の手伝いではなく家事分担だという人が多かった」という報告がある(2)。今回、父親の考える育児支援は育児行動であり、家事や相談相手も育児支援に期待する妻との間に認識の差があることが明らかになった。しかし、夫の育児参加は妻が時間的にもゆとりを持った子育てをするためには不可欠な事である。したがって、父親としての準備期間である妻の妊娠中から、分娩・育児について、夫婦間のコミュニケーションを図り、感情を共有することが必要だと言える。

文 献

1. 森田亜希子、森恵美、石井邦子。父親となる男性が産後の父親役割行動を考える契機となった妻の妊娠期における体験。母性衛生。2010; 51(2): 429-431.
2. 汐見稔幸。妊娠出産からの父親の関わり。助産雑誌。2014; 68: 783-785.
3. 田中美樹、布施芳史、高野政子。父親になったという父性の自覚に関する研究。母性衛生。2011; 52(1): 71-6.
4. 前田規子、中尾優子、宮原春美。父性に関する研究。長崎大学医学部保健学科紀要。2002; 15(2): 53.
5. 岩田裕子、森恵美。父親役割への適応過程を促す看護援助に関する文献研究。千葉看会誌。2004; Vol. 10. no. 1: 51-2.
6. 難波大樹。新しいパパの教育書。抜粋教育出版。2015; 14-7.

用語の定義

父親の自覚：父親としての意識が芽生え、自分の置かれている位置・状態、父親としての自分の価値を知ること。

英文抄録

Original article

The questionnaire survey about the events of husband's awareness of his fatherhood

Uonuma Hospital, 2 ward, Department of obstetrics and gynecology; midwife

Nami Hosokai, Mieko Nagai, Naomi Nagumo

Objective: Both husband's awareness of his fatherhood and his participation in childcare were necessary for his wife to lead a healthy childcare. Therefore, we tried to determine the events of husband's awareness of his fatherhood to improve his childcare behavior.

Study design: Investigation included the husbands who attended a maternity education class. The self-style investigation using the question paper to husbands was confirmed and analyzed.

Results: The husband was aware of his fatherhood through the incentives of his wife's pregnancy, delivery, and the collaborating childcare behavior.

Conclusions: 1. Husband became aware of his fatherhood through the events of the pregnancy, delivery, and puerperium of his wife. 2. Husband regarded his childcare behavior as the childcare support, and there was a difference of the recognition between the wife who regarded that the childcare support included the household work and her adviser. 3. The establishment of fatherhood required to promote the active childcare participation and share the couple's feeling.

Key words: husband's awareness of his fatherhood; event, questionnaire survey, self-style investigation with the question paper, childcare support, childcare behavior, recognition difference from his wife

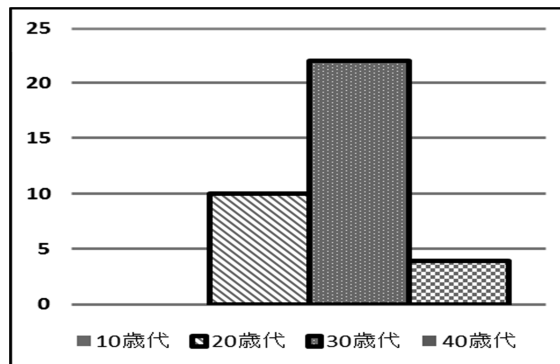


図1. 父親の年齢
30歳代22人、20歳代10人、40歳代4人であった。

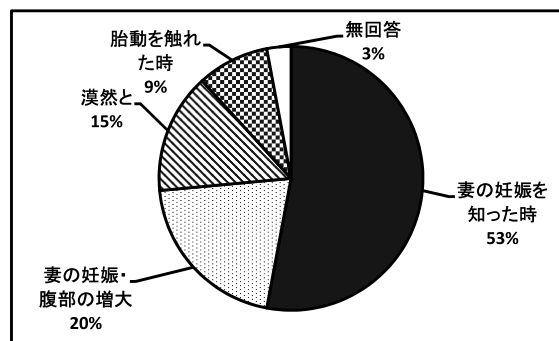


図2. 父親を自覚した場面
7項目から選択してもらい、妻の妊娠を知った時53%、妻の腹部の増大に伴って20%であった。

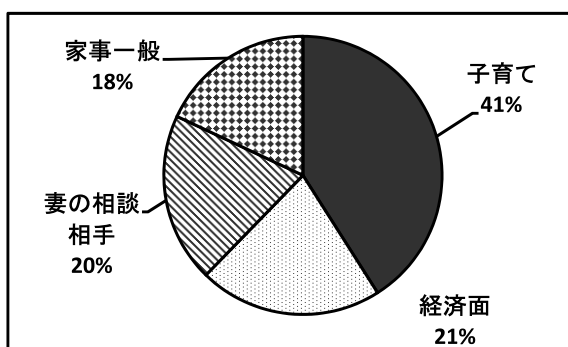


図3. 妻にしてあげたい支援
父親を自覚した後、妻にしてあげたい支援は、子育て41%、経済面21%、相談相手20%、家事18%であった。

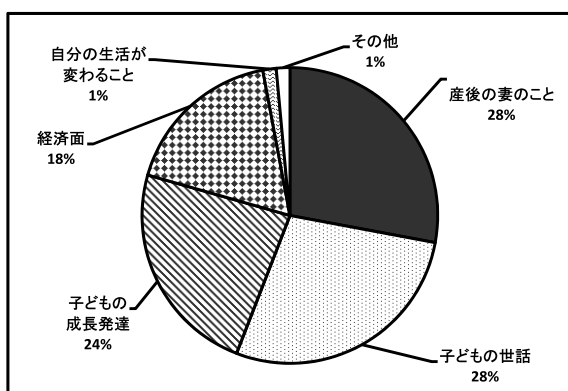


図4. 赤ちゃんとの生活で心配なこと
退院後、赤ちゃんの生活で心配なことは、子どもの世話28%、産後の妻のこと28%、子どもの成長発達24%であった。

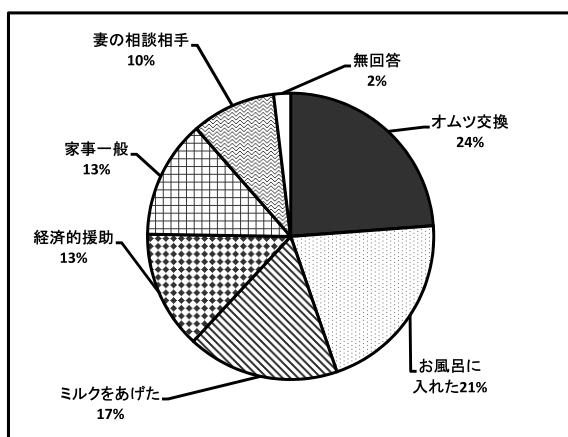


図5. 1か月健診までに行った支援
父親が1か月健診までに行った支援は、オムツ交換24%お風呂入れ21%ミルクをあげた17%であった。

表. アンケート用紙

父親についてのアンケート（父親の方に記入をお願いします）

当てはまる番号に○をつけて下さい。その他は()内に記入して下さい。

1、年齢

- ①10歳代 ②20歳代 ③30歳代 ④40歳代

2、乳幼児（7歳未満）のお世話体験の有無

- ①あり ②なし

3、今回の妊娠を知った時の気持ち

- ①やった、うれしい ②元気に育って欲しい ③性別を知りたい ④うそ、冗談、困った
⑤複雑な気持ち ⑥その他()

4、どの母親学級に参加しましたか

- ①第1回 ②第2回 ③第3回 ④第4回 ⑤その他()

5、「父親になるんだ。」「父親になったんだ。」と自覚（感じた、実感）を得た時はどんな場面でしたか

- ①結婚した時 ②妻の妊娠を知った時 ③他人の子供を見た時 ④漠然と ⑤婚約した時
⑥子供が欲しいと考えた時 ⑦妻の妊娠、腹部の増大に伴って ⑧その他()

6、「父親になるんだ。」「父親になったんだ。」と気持ちが増した時はどんな場面でしたか

- ①妻の腹部を触れた時 ②胎児の画像写真を見た時 ③胎児の心音を聞いた時
④妊娠に関する本を読んだ時 ⑤赤ちゃんの名前を考えた時 ⑥母親学級に参加した時
⑦赤ちゃんが映ったビデオを見た時 ⑧人形を使用して、お風呂に入れた時
⑨お産に立ち会って腰をさったり、励ましたりと妻を支援した時 ⑩赤ちゃんの産声を聞いた時
⑪赤ちゃんを初めて見た時 ⑫赤ちゃんを抱っこした時 ⑬オムツ交換 ⑭ミルクをあげた時
⑮お風呂に入れた時 ⑯あやしている時 ⑰パパ友や先輩パパの話を聞いて
⑱ベビー用品やおもちゃなど赤ちゃんに関する用品の買い物をした時 ⑲その他()

7、自覚した後、妻や子供（赤ちゃん）の為に、どんな支援をしたいと思いましたか

- ①子育て ②家事一般 ③妻の悩み・相談相手 ④経済面 ⑤その他()

8、1ヵ月健診までに、実際に行った支援

- ①オムツ交換 ②ミルクをあげた ③お風呂に入れた ④経済面
⑤家事一般（掃除、食事作り、ゴミ捨てなど） ⑥妻の要望に応えた、相談相手になった

9、入院中、「赤ちゃんのお世話体験をしたい。」と思う又体験ができればしたいと思いますか

- ①はい ②いいえ

10、退院後、赤ちゃんとの生活でどんな事が心配ですか

- ①産後の妻のこと ②子の世話 ③経済面 ④子供の成長発達のこと ⑤自分の生活が変わる事
⑥その他()

(2016/12/12受付)